

研究の目的と方法

エコツーリズムにおいて、地域住民がガイドを担うことで、地域社会に雇用拡大、所得向上という直接的な経済的効果をもたらすと同時に、地域社会が持つ自然と文化の価値の再認識という教育的効果を促し、さらに、地域社会と外部関係者との間で情報の伝達が活性化される効果がある。

エコツーリズムにおけるガイドの役割と効果についての研究は、エコツーリズム内でのガイドの役割とエコツーリズムを通じた効果の発現から論じられてはいるものの、地域住民が担うガイドに焦点をあて、地域社会での役割と効果に着目した論文は少ない。本論文では地域住民の視点から住民ガイドの地域社会での役割と効果について考察する。

エコツーリズムを進める上で、住民ガイドは地域社会において、経済的、教育的、情報伝達の役割と効果があり、特に教育的な効果に大きな意義があると仮説を捉える。そして、住民ガイドの視点から、住民ガイドが果たす地域社会への役割とその効果を明らかにすると同時に、こうした効果が発現した要因、発現が限られた要因を示す。

エコツーリズムにおけるガイドの役割について、主な要素はエコツーリズム事業運営上での役割と地域社会での役割に分類できる。本論文では前者を①エコツーリズムでの役割とし、後者は、地域住民がガイドを担う場合の特徴的な役割を整理し、②経済的役割、③教育的役割、④情報伝達の役割に分類して考察する。

先行研究の調査として、エコツーリズムの概念、エコツーリズムと地域社会の関係、エコツーリズムにおけるガイドの役割について文献を整理し、事例対象地域について収集資料から研究課題の設定を行う。

事例の住民ガイド事業について、国立公園の報告書や担当者からのヒアリングにより、事業の進捗と課題及び課題を克服してきたプロセスを確認した。同時に、住民ガイドにとっての地域社会におけるガイドの役割と効果の認識について、当事者に対するヒアリング調査を通じて調査した。

フィールド調査ではガイドの収入の増減、他の職業の収入との比較、生活費と収入の比較、扶養家族の数、ガイドの年齢など、定量的に分析できるデータの収集をするとともに、各メンバーの実感としてガイドという仕事がどのように生活に影響して、各自にとってどのような位置づけであり、どのような役割を求めているのかという質問項目についてヒアリング調査を中心とした質的調査を行った。また、住民間、住民と行政や民間企業との関係について、住民ガイドに対するヒアリング調査と同時に、地域住民、国立公園、ホテルの当事者からもヒアリング調査を行った。

論文の構成

1. 研究の背景と目的
 - 1-1 研究の背景
 - 1-2 研究の目的と枠組み
 - 1-3 事例の選定
 - 1-4 研究の方法
 - 1-5 エコツーリズムの概念
 - 1-6 地域社会との関係と住民ガイドの役割

2. ロサリオ・サンベルナルド珊瑚自然国立公園における住民ガイド事業
 - 2-1 国立公園の概要
 - 2-2 地域コミュニティと土地問題
 - 2-3 住民ガイド事業の概要
 - 2-4 住民ガイド事業の課題

3. 住民ガイドの役割と効果
 - 3-1 エコツーリズムでの役割
 - 3-2 経済的役割
 - 3-3 教育的役割
 - 3-4 情報伝達の役割
 - 3-5 役割と効果に対する住民ガイドの認識
 - 3-6 住民ガイドへの効果とその要因

4. 関係者への効果とその要因
 - 4-1 地域社会との関係
 - 4-2 国立公園との関係
 - 4-3 ホテルとの関係
 - 4-4 関係者との関係を発展させた効果の要因

5. 結論と今後の課題
 - 5-1 住民ガイドの役割と効果
 - 5-2 効果の要因
 - 5-3 今後の課題

参考文献／謝辞

論文の概要

エコツーリズムの概念はこれまで様々な機関によって定義されてきており、その機関の背景や立場によって、重視する視点は異なっているが、主に環境、観光、そして地域開発という3つの要素が含まれている。研究対象地域であるコロンビアでも自然国立公園を中心にエコツーリズムによって環境保全と両立した持続可能な地域開発を目指すことが政策として位置づけられている。

エコツーリズムの地域社会への影響は、社会的影響、経済的影響、教育的影響があげられる。社会的影響は、主に観光客と地域住民の接触によって発生する。その接点にあたるのがガイドであり、住民ガイドは観光客からの影響を他の住民より早く、大きく受けることになる。そのため、ガイドは影響の受け止め方やその対応の判断が求められ、また、地域社会から観光客へ影響を与える立場としても大きな役割を有している。地域経済への影響については、地域社会内部の経済的地位の変化と、地域外の観光関係者との競争があげられている。エコツーリズムの主な事業であるガイド事業も、従来の観光形態のガイドとの摩擦を生み、また、外部から参入する観光関係者との競争を強いられることとなる。さらにエコツーリズムの効果として、個人のエンパワーメントと、地域の基礎力の向上という能力向上の効果があげられる。地域の固有価値を観光客に案内・解説していく住民ガイドは、地域住民に先んじて効果を得て、さらに他の住民に波及させる立場でもある。

このようなエコツーリズムの地域社会への社会的影響、経済的影響及び教育的効果を踏まえた上で、本論文では、住民ガイドにとっての地域社会におけるガイドの役割と効果について、①エコツーリズムでの役割、②経済的役割、③教育的役割、④情報伝達の役割に整理し、それぞれの効果について考察する。

研究対象地域であるコロンビア共和国ロサリオ・サンベルナルド珊瑚自然国立公園が管轄するグランデ島では、地域住民への環境教育、地域住民の所得向上、エコツーリズムの振興を目的として、住民ガイド事業を実施している。地域住民の仕事と教育へのニーズに対応する形で、国立公園が組織化と運営を支援してきた。

グランデ島の住民ガイド事業の課題としては、国立公園と住民ガイドの事業に対する認識の相違があげられる。国立公園がエコツーリズムにおける地域住民と観光客への環境教育を重視するのに対して、住民ガイドは観光収入を得るための知識や技術の習得を優先したい意識を持っている。また、住民ガイドグループ内部の組織運営と国立公園やホテル、他の地域住民との関係における課題をあげることができる。

エコツーリズムでの役割は、観光客のニーズを適切に把握した上で、地域の環境や文化を案内・解説・体験といった技術によって付加価値を作り出し、それをわかりやすく伝えるインタープリターとしての機能である。エコツーリズムにおけるガイドは対象地域での生活に

基づいた経験を伝える現地ガイドと、それを観光客のニーズとつなげるエコツアーガイドに役割を分けることができるが、グランデ島の事例では住民ガイドがその両方の役割を担っており、ガイド自身もその役割を認識している。

経済的役割については、次の 3 点があげられる。①住民ガイド個人の収入安定、②地域経済への貢献、③住民ガイド事業の持続可能性である。グランデ島の事例では、住民ガイド個人の収入安定が住民ガイドにとっての最大の目的であるが、地域経済への貢献という役割の認識は低い。また、住民ガイド個人の収入の安定が住民ガイド事業の持続に影響している。

教育的役割については、次の 3 点があげられる。①エコツーリズムにおけるガイドの知識の向上、②その他の社会的能力の向上、③地域住民へ教育的効果を波及させる役割である。グランデ島の事例では、住民ガイドに教育的効果を与える主な要素として、①環境教育、②基礎学力の向上、③組織運営能力の向上、④コミュニケーション能力の向上が特徴としてあげられる。

情報伝達の役割については、①外部への情報発信と②地域コミュニティへの情報伝達があげられる。グランデ島の事例では、外部への情報発信の役割として住民ガイドは島のコミュニティの生活環境を観光客に紹介できる機会を提供している。また、地域コミュニティへの情報伝達の役割として、環境保全、エコツーリズムの考え方を地域コミュニティへ伝達している。

役割と効果に対する住民ガイドの認識について、住民ガイドは自分たちの島の生態系や固有の文化を観光客へ伝えるガイドという仕事に誇りや自信を持っている。他方で、住民ガイド事業の経済的効果については、将来的な限界を認識している。ただ、住民ガイド自身の社会的能力向上について、ガイドを辞めて他の仕事に就いていても、その効果については評価が高い。

住民ガイドと地域社会との関係では、地域住民の環境保全と観光を合わせたエコツーリズムの考え方への理解が促進され、観光客の視線に配慮するようになり、環境保全意識が高くなった。住民ガイドは組織的なグループ化とガイド個人の収入の安定によって、地域社会で仕事として認知されるようになり、環境教育などを通じた地域住民との交流は一定の評価を受けている。他方で、ガイドグループの固定化によって、地域社会への経済的利益の波及は不十分である。

住民ガイドと国立公園との関係について、国立公園は住民ガイドに対して自律的運営に一定の評価をしており、国立公園の関与を減らす方針を持っている。そのため、国立公園とガイドグループとの関係は依存から自律的運営に変化してきている。

ホテルはエコツーリズム振興における観光客の増加を期待しており、ガイドグループとホテルの関係は活動の制限から観光のパートナーとしての関係へ変化してきている。

住民ガイドの経済的役割とその効果について、住民ガイドの事業開始当初の効果への高い

期待は役割を果たす強いモチベーションとなっている。住民ガイド個人に対して一定の効果として収入と生活の安定をもたらしたが、将来的な収入増の期待がなく不安となっている。また、地域社会に対しては、経済環境、生活環境の変化に対するガイド事業の限界が示され、限定的な効果となっている。その要因として、島の立地、環境保全への配慮に伴う観光収入の限界、住民ガイドの生活支出の増加に対するガイド収入の限界、そして、ガイド以外の就業機会の増加があげられる。

教育的役割とその効果として、まず、自然環境の専門知識と環境保全への姿勢、基礎学力、組織運営能力、コミュニケーション能力の向上など住民ガイド個人への高い効果があげられる。これらはガイド以外の仕事、生活でも有効性が示されている。環境保全、観光関係者との関係の発展はガイドグループの交渉力の向上を促し、自信と信頼関係の構築に至っており、住民ガイドグループ組織への効果も高い。また、地域住民への環境教育は地域社会のガイドとして認知されるきっかけとなるなど、地域社会への一定の効果はあらわれている。しかし、ガイドグループの固定化は効果を限定させている要因となっている。

情報伝達の役割とその効果について、地域の自然環境と文化の発信の役割を果たしており、外部への情報発信の効果は高い。他方で、多くの情報が住民ガイド以外の接点から直接地域社会へ伝播している中で、環境保全に関わる考え方を地域社会へ伝える住民ガイドの役割も一定の効果が認められる。

住民ガイド事業における社会的能力の向上は住民の教育機会へのニーズに合致しており、ガイド以外の仕事で有効である。住民ガイド事業は地域社会にとって直接的な経済的效果に限界があるが、事業を通じた住民の社会的能力向上が認められ、その教育的効果は地域社会にとって意義があるといえる。